

令和5年度 かほく市立大海小学校 学校評価 最終報告書

経営目標	主担当	取組内容	評価の観点	達成度判断基準	児童の評価	保護者の評価	地域の方の評価	教員の評価	達成度(判定)	後期の方向性(改善計画等)	学校運営協議会委員による意見	
1	学習指導部	ア「自ら考えるための手立て」「学び合うための工夫」を研究の重点とし、授業改善に努める。	授業において「自ら考えるための手立て」や「学び合うための工夫」を意識して指導している。	教職員アンケートで80%以上	89%			100%	A	・前期の結果を受け、研究の成果と課題を職員と共有し、共通実践を進めてきた。特に「学び合い」のための実践に今後も継続して取り組んでいく。	大海小は昔から、先生方の手厚い指導のおかげで、児童の自己評価が高いのだと思う。大海のよさを継続して欲しい。 1人1台端末の使用について、大海小の児童が大変慣れていることに驚いている。 「質の高い本はだれが、どのような基準で選んでいるのか」が気になった。司書の先生が学年に合った本を選び、教室に配置してくれているのがわかり、納得した。 次年度150周年に向けて、さまざまな動きがあることがわかった。	
		イ★タイムマネジメントを意識し、「振り返り」や「適用問題」の時間を確保する。	授業において、「振り返り」や「適用問題」の時間を確保している。	教職員アンケートで80%以上					児童アンケートで80%以上	A		・90%をきっているが、高学年の肯定的評価は上がった。来年度に向け、さらに「表現する」に重点的に取り組む。
	担当GA	ウより主体的な学習となるために1人1台端末を効果的に活用したICT教育の実践推進	1人1台端末を活用した授業を計画的に行っている。	1人1台端末を活用した授業を週に1~2回行っている				100%	A	月1回のタブレットに関する校内研修で、教師のタブレット操作への知識が増えたことにより、授業における1人1台端末の活用が促進された。今後も効果的な端末活用法を共有していく。		
	学習指導部	エ 家庭学習の習慣づけを図る。(10分×学年)	学年に応じた家庭学習の仕方が定着し、進んで取り組んでいる。	10分×学年の時間をクリアした割合が90%以上 児童・保護者アンケート「自分で計画を立てている」で80%	86%	89%		94%	A	・家庭での学習習慣が十分身につけていない児童が若干名見られる。目標とする学年の学習時間や、計画を立てて勉強すること等、具体的な姿を共有し、家庭学習の意識を高めていく。		
		オ 読書に親しむ習慣化を図る。	朝読書や学年に応じた必読書を設定することで、本を読む習慣をつけ、質の高い本を読んでいる。	年間 次の数値以上 低学年は150冊 中学年は100冊 高学年は80冊	80%				B	図書委員会のイベントが功を奏し、本を借りる児童が増えた。一方で、本を借りない児童が固定化している。担任に声をかけてもらいながら読書のよさを実感させていきたい。		
2	生徒指導部	ア★いじめや問題行動の早期発見・早期対応・事後の確認、継続指導(観察)を徹底する。	問題行動が起きる前に、児童と積極的に関わり、生徒指導主事を中心としたチーム対応で家庭と連携を図り、問題解決ができるようにしている。	教職員アンケートの結果が90%以上 S:「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」「いじめをしていない」が90%以上 P:「学校のいじめの未然防止や早期発見の取組が伝わってくる」が80%以上	100%	89%		100%	A	・アンケートの結果からだけでなく、日頃の些細なトラブルであっても、学校の対応や指導を確実に保護者に伝えていく。そして保護者との協力関係を築く。 ・いじめが疑われるときには、すぐに情報の収集、共有をおこない、組織的に対応していく。	肯定的評価が高いのは、大海小のとてもよいところ。先生方が、1人1人に対してきめ細やかに指導してくださっているおかげである。「学校へ行くのが楽しい」と回答する児童が今後さらに増えるように、がんばってほしい。 地域でのあいさつはよくできていると思う。ただ集団登下校ではできているが、1人になるとあいさつすることに対して消極的になる一面もある。あいさつの大切さを引き続き指導して欲しい。	
		イ あいさつを通して他者との関わりを持たせる。	家庭や地域であいさつする習慣が身につけている。 学校内でお客さんに出会ったときにあいさつができる。	三者のアンケートの評価の割合が80%以上 児童・教職員アンケートの結果が90%以上	99%	99%	85%	100%	A	・あいさつがより良いものとなるよう、児童が中心となって様々な取り組みを企画していく。 ・あいさつの質の向上のために、各学級や集会の場を活用して、継続的に指導をしていく。		
		ウ★配慮を要する児童への指導や支援の在り方について児童理解の会等を通して共通理解を図る。	配慮を要する児童に対して、組織的に取り組んでいる。	教職員アンケートの結果が90%以上					100%	A		・よりよい人間関係づくりにつながる活動を、学年をまたいで行っていく。 ・児童の「がんばり」を認め、どのように褒めることが効果的かを見取っていく。 ・生活目標の取組方を見直し、より児童の自己肯定感や自己有用感につながるものにしていく。
		エ 豊かな心をはぐくむ道徳教育の充実を図る。	道徳の授業を通して、道徳的な判断力、実践力が高まっている。	S:「道徳の授業で、内容項目について考えている」が80%以上 T:「道徳では、年間指導計画に基づき、計画的に授業を行っている」が100%	96%				100%	A		・9月・10月と指導主事を要請した研究授業が2回行われ、道徳の授業づくりについて学ぶことができた。今後は児童の道徳的な判断力・実践力を教育活動全体においても発揮できるよう指導していきたい。
3	保健安全部	ア 家庭と連携し、生活習慣の定着と運動能力の向上	養護教諭と連携して、食育や視力低下防止の授業及び活動を推進している。 「早寝・早起き・朝ご飯」、または「視力低下防止」を意識して生活できる。	児童・保護者アンケート「朝食を食べている」が80%以上 学校独自の「はっぴー～貯金」の調査で就寝時刻を守ることが5日間のうち4日できたが80%以上	97%	99%			A	・習い事のある日でない日でも、寝る時刻のめあてを調整するなど、自分の生活リズムにあった就寝時刻を考えることができる児童が増えた。 ・就寝時刻に関しては保護者の意識が大きく影響するため、児童だけでなく保護者と話をしていく。	マラソン大会では、走る児童に向けて、沿道で保護者や子ども園の園児達・地域の方が応援する様子が見られ、微笑ましい。	
		イ「体力づくり1校1プラン」による体力と運動能力の向上を図る。	各学年で、スポチャレに取り組んだり、苦手種目を意識した活動を取り入れている。	教職員アンケートの実施で80%以上				100%	A	・かけ足タイム、なわとびチャレンジ、8の字とび大会など計画的に行えた。特に8の字とび大会が盛り上がり、今後も継続していきたいイベントとなった。		
		ア 業務の軽重、会議や行事の精選を工夫し、組織的運営を推進する。(「四協」で取り組む)	県全体で行っている勤務時間調査における勤務時間が昨年度を下回る。	勤務時間調査					R5 27.0 -11.5	A		・特別日課の活用、学期末の時間調整等により、勤務時間内で、教材研究や学級事務を行う時間が確保できた。
5	学校コーディネーター	ア 地域素材を生かした学習に積極的に取り組む。	総合的な学習や生活科等で地域の素材や人材を生かした授業を行っている	教職員アンケートの実施で90%以上	96%			100%	A	・学校CNと連携して今後も活用場面を考えていく。活動を義務的に終わらせるのではなく、児童の「やりたい」を引き出し、「学んでよかった」が生まれる活動になるように、事前事後の指導を充実させる。	今年度もコーディネーターの池田さんがよく動いてくださり、充実した学習が数多く行っていた。GTで呼ばれるのを楽しみにしている地域の方もおられる。今後も地域人材をうまく活用して、児童の心に残る活動を行って欲しい。	
		イ「学校運営協議会」の効果的な運用、学校関係者評価を生かした学校経営を実施する。	家庭や地域との連携に際し、積極的に学校コーディネーターや学校運営協議会を活用している	教職員アンケートで80%以上 委員アンケートの実施で80%以上								